

談話会通信 №33

目次 新入・住空・み知らせ
1
きまぐれポスト
2
会計局はり・お知らせ
7
伝言板・掲示板
8

東京蜘蛛談話会

一年は、早いものでもう11月となってしましました。今、盛んに目につくジョロウグモもあとわずかの命となってしまい、クモも越冬に入る時期となっていました。これからは、デスクワークが多くなることと思われますが、冬のクモと外で観察してみてはいかがですか。

・新入会員

池田 博明さん 〒258 神奈川県足柄上郡大井町金手 1099 長川 吉

島根 勝美さん 〒343-01埼玉県北葛飾郡松伏町大川戸 88-2

・住所変更

山川 守さん 〒204 神奈川県横浜市保土ヶ谷区新井町 127-3

馬場 武彦さん 〒810 福岡県福岡市中央区舞鶴 2-7-21-402

熊田 憲一さん 〒190-11 東京都西多摩郡羽村町羽加美 3-6-31

三会合同例会 予告

いよいよ今年も、あと2ヶ月をあますばかりとなってしまいました。

来る12月21日(日)に恒例の三会合同例会を会催する予定であります。

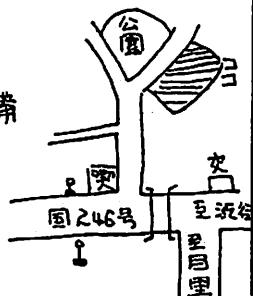
皆様にはあらためて御連絡が届くと思いますが皆様の予定の中へ入れておいで下さい。

日時 12月21日(日) 10時より

場所 国立大橋公民会館

* 発表を希望される方は、いまのうちから準備しておくと良いと思います。

尚、今年の司会者は、多足類の高野光男さんです。



さまぐれ

ポスト

(自分のページ みんなのページ)

► 鈴木 勝浩さんより

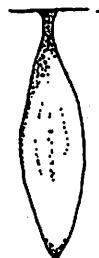
• 三宅島にいたトリノフンダマンの仲間

私は今年、三宅島にいき、正体不明のトリノフンダマンの仲間の卵のことを採集することができました。三宅島には、1977、1978に続いて今回が3度目の蜘蛛捕食です。

1977年には、ホシヒメグモモドキをはじめ、頭部に突起がなく、触肢が長いヤリグモの♀など、まずまずの收藏でした。1978年にも、昨年と同じヤリグモを採集しました。そして今年は、また、ホシヒメグモモドキと、ヤリグモ(おもしろい)を採集しました。さうして今年は、今年はなんと、トリノフンダマンの仲間の卵のうを採集しました。{ トリファンでも、オオトリファンでも、ソメワタ } 8月6日に採集した卵のうは、東京での学会の間に *emergence* しました。

ようやく、トリファンの仲間のいる雰囲気のわかりだした私ですが、今まで2回の採集旅行ではトリファンの仲間がみつかなかつたので、もう三宅島には、トリファンの仲間はないとなかば断定していたのです。ところが今回の採集で、トリファンの仲間の卵のうを採集した私は、やっぱり、まだ未熟なんだと、つくづく感じています。一時は、トリファンの臭いがするといって、トリファンの仲間をみつけた私なのです……。こうなると、い、たい三宅島にいるトリノフンダマンの仲間が何なのか、興味が湧いてきました。

トリノフンダマンの仲間をしるんだったら、日本でNo.1. or No.2. の山川氏か高野先生、新海氏に、ぜひヒミツ三宅島にいってもらひ、この謎のトリノフンダマンの仲間の卵のうの正体をあばいてもらいたいのです。



不明の
トリノフンダマン
の卵のうです。

2.6cm

► 成合 智美さんより

• 映画に出ていたクモ

私にとっては、これがはじめての投書なのです。観察・採集会にも出席したいのですが、遠い宮崎から学生の身でいくのは、金銭面でたまへんきつのです。宮崎で観察・採集にがんばっていきたいと思ってます。

ところで、先日「青い珊瑚礁」という映画をみてきましたが、その中にクモがでてきたのです。頭胸部は褐色で、腹部はカイコのまゆのように赤白く、黄色のしま模様だったと記憶します。脚には赤い模様があります。脚の上には、白い網状の模様があります。網はとても細かいです。名前がわからなかったら、おしゃて下さい。熱帯地方の風景でしたから、熱帯産のものではないかと思います。

もう一つ、これはお願ひなのですが、クモのポケット図鑑」を私のような未熟者には図鑑を必要とする品目でなくてはいけません。植物・鳥・蝶・昆蟲 etc は、ポケット図鑑があるのうか? できれば、できるだけはやくつくっていただければとたいへんうれしいのです。よろしくみぬがいします。

私は映画を見ていないので何ともいえませんが、映画を見た方、また何といふクモであるかわかる方は、おしゃてあげて下さい。(編集)

→鈴木 勝浩 さんより

・私に カンビールをくださいった
ヤマシロオニグモ ♀ ad.

経済的それとも怠慢?なヤマシロ
オニグモ.

9月8日～11日まで、私は水生昆虫を研究しておられる4年生の西村先輩といっしょに、MAZDAのBongo 1000で千葉県の清澄方面に採集にいきました。

がニボを捕食していました。

、人興味あることと思ひます。
。約一時間にわたる観察の道すがら、
マドボタルの幼虫が数多く、すばら
い光を放っていました。全く人工の光
がない、ここ清澄の演習林では、誠に
神妙的な、幻想的な光のようにさえ感
じます。

よく私は、捷うて
P.m. 7時45分頃、再びラジオの音の前
に来ました。なんなんといふ葉裏に静か
は、右側のかづきマジックのやうな系を全く
にしていました。一一本のやうなマジックを
くりさせました。

「はやく巢さばく」はうつぞモよしと先と號をし
「は食いあづいたが、何を」と、おひいなしで、
壁は、モにいってばまへん。

がかりのうがなうおもふへます。(P.m. 7時頃) どういへます。

翌朝の午時30分頃にも、きのうの夜と同じ場所でじっとしていました。

「カラスの勝手なうぬ
「クモの勝手でしょ」ではない
でしょうか? (狂蝶)

9月14日(日)
読売新聞より 2編

猛毒サソリ「密入国」
輸入材と一緒に
新木場 インドネシアから

毒針を持った節足動物のサソリが、東京・江戸川区新木場ニ丁目の製材会社で見つかった。インドネシアからの輸入材の間にひそんでいたもので、十三日、研究者に鑑定を求めるところ、これが人を殺すほどの猛毒を持つ種類と分かり、材木の仕分けなどにあたっていた作業員たちをあうためて震えあがらせた。

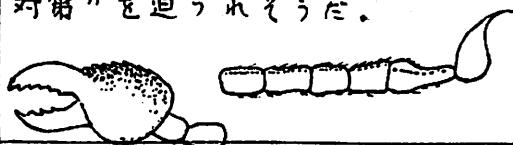
中略

十三日、このサソリを、ムカデ、ヤスデの研究を三十年以上続け、サソリにも詳しい都立小岩高校教諭、篠原至三郎さん(49)に見せたところ、「チャグロサソリのメスらしい」という鑑定。篠原さんによると、サソリといっても、猛毒を持つものは案外少ないが、これは「人が刺されたら命を失うほど猛毒タイプ」という。

飯高木材工業の話では、サソリがいたセラヤ材は今年三月ごろ有明一丁目の野積み場に荷揚げ、八月初め、工場に運び込んだ。この間、材木の間にひそんでいたとみられるが、篠原さんは「サソリは生命力が強く、一ヶ月ぐらいい何も食べなくても平気。材木の間に虫がいれば、それが食糧になる」という。

ところで、この恐ろしい珍客の上陸を阻止する法や制度はいまのところない。輸入材の検査をする植物防疫所(全国で九十七か所)では「キクイ虫など材木に害を与えるこん虫や病菌をチェックするのが目的で、サソリは対象外」(農水省植物防疫課)という。

危険なチャグロサソリの本土上陸は、篠原さんによると、最近では三年前の岡山県玉野市に次ぐケース。沖縄以外では血清を用意しているところはないだけに、輸入木材を扱う業界は、「対策」を迫るれどうだ。



続 動物のなぞ

オナガグモ

大野 正男

「簡単な網は落とし穴」

オナガグモは変わったクモです。おなかが極端に長く、まるでヘビのようですが、ヘビグモという別名があるくらいです。形だけではありません。網もできます。木の枝の間に一本か二本か三本を張り、ただけといふ。かんたんにうなづいています。木の網がつくれば、木の網を張るといふ。木の網をしうべてみました。しかし、どの網もどの網もみな雑なものばかりで、一番複雑なものでも糸はせいせい三本どまりでした。

こんな網で、一体、どんなのがかかるのでしょうか。糸がやぶらぬばつき、えもくなれば、ちよふふだけで動けなくなります。ところが、オナガグモの糸は、どこをさわっても全然ぬばらぬいのです。

私はここでもうひとつがんばるべきのつもりです。しかしながら、高校三年、うそではなくなってしまった。そこから二十二年後(昭和四十七年)のところです。東亜クモ学会の大会が東京で開かれたとき、新進のクモ学者新海栄一さんが、このオナガグモについての研究結果を発表されました。新海さんによるところです。

オナガグモの網を、ただの糸とよちがえてほかのクモが伝ってくると、オナガグモは左右の後ろ脚の間にねばねばの糸をはり、これをさっと投げつけてえものを捕えるというのです。

だとすれば、あまり複雑な網はかえってよくありません。クモの網だとわかる相手が警戒してしまってからです。

オナガグモは夏から秋にかけ、平地や山にたくさん見られます。しかし東京のような市街地からは、すっかり姿を消しました。都市化には弱いクモなのでしょう。

(東洋大学)

►朝日新聞 5

第三章

毒づモより怖い娘

局の忠當歳に忠毒あタどニ。はに成つ年致
警四十ド。益たなはう毒事件末
の町ど、ベレビを大動少とラの女。
ナほ親導テ映けたヒイチは、し
ノの両補、の掛くるてシ局方渡
ウイでモするうに躊躇に迫ク察る引
川町クとあユ屋を親脅た警めに
ソタ同のうはケト匹両を、で始官
ソタ等よ女ンッ一、親買のを当
ネヒ益せ少ラベうが両のも直扣
ミるがまのタのユだも文の搜導
米よ文公ニ「町ナ明で少性て補
に少びモ、シ不ホ死い者

(UPI共同)

▼ 遊田 理恵さんより

北海道道南の春

夏準備で、さうのは、何か考のは、か夜、のたまわ
北海道、節準いがど、にた、寒かい森えスが口に人
季のしんけ逆しやばな青ひ力体に人
た期かさんだヒミツれらのもた、ビタマ
までし時難ば定』い暑こな日でれかほば
まりのらお預ねまて。に昨とくヒぐお
25日きこやのくかしつすて。にてこうを
の宿行へてよまあにのしてたつ方
らはがもたにいっにきか現う出つくり
かにすい京うちよ人って駿。といがしか。つく
うで良泊東たこ。といがしか。つく
18日より單り白のじに違体せ向こいビ
の簡た昨月ひ答るはのま中ばあいビ
冬もし。うて返み方分れ向おヒ
や備うす。『着てヒ白しヒ人
まるほびめ、

青函ではぬむ気に勝てず。とうとう足をなげ出帳して真白のままです。私の野帳は、函館から江差にむかう電車の中から始まりました。

——— 北海道の記録の前ページには
、ちょうど春先に埼玉県被父方面へ
行った時の記録をありました。関東で
古やや遅い春をむかえた吾蜀。子ノ權
現の様子を書きとめているので、載せ
てみます。

4月22日、天候くもり。

4月10日ごろより羽村では、おちつかない天気が続く、風が強かったり、雨が5日以上降り続いたりでは、モリしなかた。この間桜は14~17日ごろまでほとんどの木に花が残る。本日も昨日までの雨の影響か、くもり空である。明るいが晴れる見込みなし。

う。すうと白うんでいい。クヌギ・コナラの幼葉が出てきているためだうう。つやつやした白っぽいクヌギの幼葉が枝にたれているのが思ひだされる。

西吾野から子ノ権現へ…(沢そいの土手にて)

植物…ヤマブキ(F・花) スミレ(F)

キランソウ(F) ムラサキケマン(F) キ

ケマン(F) ハコベ・ウンハコヤ(F)

蜘蛛…コハナグモ

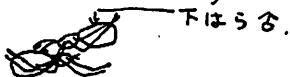
ナンブコップグモ・アズマキシダグモ♀
シロカネグモの類♀+3. ユウレイグモ・
マミシロハエトリ、カラフトオニグモ♂
クスミサラグモ♀…交接しているものが
多かった。交接に35分以上のがあった。



①下にいる♀が第1脚で交互に巣をたたきながら♀に近づく。第2脚もとどきおり使う。にじりよるようにトヨイヒに近づく。

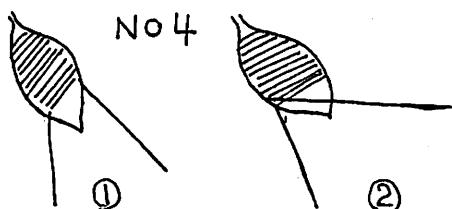
②♀も第1脚を使いつがら近づく。

③♀がヒカルと♀がそのまま寄る
♀が下にいることが多く♀は上げたようになっていっているのが多かった。

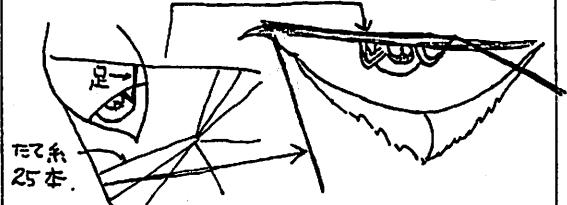


子ノ権現…メガネドヨウオニグモ♀
・オニグモ♀幼・カラスハエトリ♀+2~3・ヤリグモ・クサグモ+4.
・ヤマヤケアモ-2 ユノハマサラワモ
・オナガグモ(アリグモ・メガネアサヒハエトリ?(幼))この2種はツバキの葉
にて。

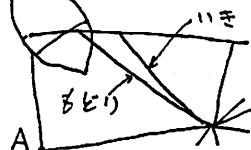
浅見茶屋…オオオニグモNo.4に記録したように、今までオオオニグモの住居(かくれていい所)からのべる系は①のようになつていいと思つていたが、よくみると、今回の場合一方より出でいることがわかつた②。これからもよくみておくこと。



第1脚をその一方の糸にかけてエサがかかるのを待っていた。基節・軀節は葉の中・たい節より外に出ている。



ス! 「ボをあてるヒクモがおどろいてくる。下またまかかるていた虫(1~2mm)をヒラえてすみやかにちぢむちぢったあとをみると2本糸が増えていた。」



アオオニグモをおびすと、下におちた。2分ほどで糸をたぐってちぢむ。集めた糸は上の図のAのところにつけてしまつた。葉にすみやかにちぢつてしまつた。その他、バラギヒメグモ、コクサグモ、野帳のまま載せてみましたので説明のたらぬ部分があるとは思いますが、だいたいの様子や見かたをつかんでいただけたのではないでしょうか。それでは、話をおどしてみたいと思います。...

北海道の1日目の録帳は、江差方面にむかう電車の中から始まります。“5月18日(晴れ)山に雪が残っています。どこでも田植の時期。(これは東北と同じ)山間部は、まだ木々の芽吹きは初期段階である。山間部をすぎると、かなり芽がのべてきています。こんな記録がう始まっていきます。この先は、次回の通信でお知らせしようと思ひます。



会計局 だより

郵便振替・東京7-74885

• 会費受領報告（敬称略）

55年度 原 勝司・福山研二・山川守・大河内哲二・吉田哉・馬場武彦
島根勝美・成合智美・浜村徹三・野戸章・田中穂積・池田博明

• 御寄付

景山純孝氏 東亜蜘蛛学会会員

• バックナンバー等販売

8月の東亜蜘蛛学会東京大会において KISHIDAIA バックナンバーと、
中平清氏著「クモ認義」を販売しました。その他の文献販売における
収入金の領収は、次回にできることと思われます。

• 臨時支出

印刷機の購入についての決議が可決されましたので、
こちら円を臨時支出いたしました。この件は運営委員会を通さないので、
物品購入後の請求でしたので、会計局としては決しかねましたので、今回
総会にはかり決議していただきました。

• 会計局が新住居表示によって変わりました。

〒190-11

東京都西多摩郡羽村町羽加美三丁目六番三一号

熊田憲一方

（会計についての御質問、御意見は、通信紙面 及び会計局まで）

談話室

• 萩島泉先生古稀記念誌について

通信32号と別便で、おねがいいたしましたように、「萩島先生古稀記念誌」について、再度お願ひ申し上げます。萩島先生古稀へのお祝いのことばや、先生にまつわる諸々の思い出など皆様からお寄せいただきたく存じておりますが、お早めにお寄せ下されば幸いです。なお協力金の集ま、員台も、おかげさまで順調で、もう一層というところです。

原稿は、刷り上り1~2ページぐらいのものが、多くの方のお言葉をのせられると思いますので適當かと存じます。（400字詰原稿用紙で、3~7枚です。）

上記、簡単ですが「萩島先生古稀記念誌」への投稿を再度、
お願ひ申し上げます。

（松本誠治）

伝言板と掲示板

・採集会結果報告

去る10月10日の高尾山での採集会では、20名の参加をいただき盛大に行なわれました。

手紙での連絡にもありましたが当日は116種の世界新記録を目指して、参加者(松本・鈴木(勝)・大野(紹)・利岡・松浦・島根・蓮沼・高橋・佐藤・曰下部・堀越・浅間・谷川・山本・吉浜・新海・池田・鶴田・栗原・貞元)(敬称略)の20名は、目を皿の様にしてクモを求めて採集開始。自然研究6号路を、琵琶池まで登り裏道まで下って再びケープルの高尾山口駅、この時点でおよそ100種あヒ十数種足りません。一行は川を渡り林の中で、四つん這いになり林床を探し回る者、ネットでスイーピングをする者など様々、その甲斐あってか115種あヒ1種、鈴木氏と山本氏は、ゲホウグモを求めて枯木たたき、その真最中に貞元氏の「ヒれたー」という声林の中に入っていた氏は、なんと116種目の記念すべきクモ、「キジロオヒキグモ」を採集したのです。斯くて、1日での採集種数の世界新記録を達成した談話会員諸氏は、意気揚揚と引き上げていきました。(狂蝶)

・慶事板 Part VI

31号よりお知らせしてまいりました方の結婚が決定いたしました。その方のお名前は、

栗原輝代子さんです。

結婚式は、11月18日(火)です。

(D.CIA)

・KISHIDAIA 編集より。

萱嶋先生古稀記念誌発行以前に、KISHIDAIAをあヒ1~2号を出したいと思っておりますので皆様、原稿をお寄せ下さい。(島田)

・本号では、会計報告が出来ませんでしたが、34号で収支決算の報告ができると思います。

(会計局)

・34号では、談話会図書の追加リストがのります。

(事務局)

・34号は、新年号になると思います。原稿や記事ばかりではなく、会員の皆様の近況報告やちょっと気になる事、疑問に思っていることなど、なんでも結構ですのでお寄せ下さい。

(通信編集)

・談話会会員名簿(80年8月末日現在)が出来上りました。近いうちに皆様の所へ届くと思います。

名簿は、梅林さんが作って下さいました。

万一、誤字、脱字がありましたら、また住所変更等がありましたら、すみやかに事務局か会計局へお知らせ下さい。

(事務・会計局)

・梅林さん、毎年ありがとうございます。(談話会一同)

東京蜘蛛談話会

— 通信 33号 —

・本部

191 東京都日野市豊田1896
萱嶋 泉 方 TEL 0425-81-7128

・編集・発行責任

211 神奈川県川崎市中原区苅宿612

松浦祐司 TEL 044-422-2842

1980年11月5日 発行。